

平成 26 年度第 1 回伊勢志摩定住自立圏推進協議会 議事録

日時：平成 26 年 12 月 24 日（水）10：00

会場：三重県伊勢庁舎 4 階 401 会議室

(進行役：森井情報戦略局長)

お待たせいたしました。

定刻になりましたので、ただいまから、伊勢志摩定住自立圏推進協議会を始めさせていただきます。

本日は、皆様にはご多用のところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

私は、議事に入るまでの間、しばらく進行させていただきます、本日司会を務めさせていただきます、伊勢市情報戦略局の森井でございます。よろしくお願いたします。

それでは、私から、本日ご出席いただいております方々をご紹介します。

鳥羽市長 木田 久主一 (きだ くすいち) 様
志摩市副市長 柴原 時男 (しばはら ときお) 様
玉城町長 辻村 修一 (つじむら しゅういち) 様
度会町長 中村 順一 (なかむら じゅんいち) 様
大紀町副町長 服部 吉人 (はっとり よしと) 様
南伊勢町長 小山 巧 (こやま たくみ) 様
明和町長 中井 幸充 (なかい ゆきみつ) 様

そして、伊勢市長 鈴木 健一 (すずき けんいち) でございます。

また、本日は、この伊勢志摩定住自立圏構想の取組におきまして、何かとお力添えいただいております、

三重県南勢志摩地域活性化局 野村 浩 (のむら ひろし) 局長様
三重県松阪地域防災総合事務所 岡村 昌和 (おかむら まさかず) 所長様
三重県地域連携部地域支援課 大西 宏弥 (おおにし ひろや) 課長様

お三方にご臨席を賜っております。どうもありがとうございます。

それでは、会長から、議事の進行をよろしくお願いたします。

(会長：鈴木伊勢市長)

みなさん、改めましておはようございます。本日は平成 26 年度第 1 回伊勢志摩定住自立圏推進協議会の開催にあたりお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

年の瀬も迫っての開催ということですが、本日はこれまでの協議会での締結内容等の確認、今後の取組等についてご協議いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、さっそくではございますが、議事に移らせていただきたいと思います。事項書に沿って説明させていただきます。

まず一つ目の(1)定住自立圏形成協定の項目の追加 について、事務局からご説明いたします。

(事務局：辻企画調整課長)

失礼いたします。事務局の伊勢市企画調整課長の辻でございます。

それでは、お手元の【議案第 1 号】定住自立圏の形成に関する協定書における取組内容等の追加 についてご説明申し上げます。座って失礼させていただきます。お手元の資料【議案第 1 号】をご覧ください。

背景といたしまして、神宮式年遷宮の後も、圏域の魅力を継続して発信することが求められており、またイベントの誘致及び開催を通して圏域の多くの産業への経済波及、及び交流人口の増加の効果が期待できることから、こうした取組を「商工業の振興」の取組内容に追加するものでございます。具体的には、全国菓子工業組合連合会の主催で伊勢市、志摩市、鳥羽市、県が関わって調整・準備中であり、平成 29 年に開催を予定しております「第 27 回全国菓子大博覧会」を想定しておりますが、今後開催される様々なイベントも含めていければと考えております。なお、下段の記載事項につきましては、また後ほどご説明させていただきたいと存じます。

資料 1-1 伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン(例) をご覧ください。こちらは本年 6 月に策定いたしました伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンにこの内容を追加したイメージとなっております。

資料 1-2 定住自立圏の形成に関する協定書(例) においては、昨年 7 月に締結いたしました協定書に、今回の内容を追加したイメージとして、このように提示をさせていただきます。なお、網掛けを施してある箇所が今回追加する部分となっております。

資料 1-3 全国菓子大博覧会について でございますが、さきほど説明いたしました全国菓子大博覧会の概要で、その後ろにはイメージ図をつけさせていただいております。説明は省略させていただきますので、恐れ入りますが、後ほどご高覧いただきますようお願いいたします。

資料 1-1にも記載しておりますように、今回の取り組み内容の追加は、菓子大博覧

会が具体的な内容となっていますが、それ以外に今後圏域で連携して取り組むイベント等があれば含められることを考慮のうえ、各市町におかれましてはご検討いただきますようお願いいたします。

(会長)

それでは、【議案第1号】定住自立圏形成協定の取組内容の追加 について、こういった提案をさせていただくこととなりました。

都道府県の菓子工業組合さんが全国持ち回りで開催する博覧会について、三重県で開催する中で、サンアリーナの前のところを使うにあたって、我々の協力を要請されているということでございます。

そういった中で、みなさんからご意見等があれば賜りたいと思いますが、いかがでしょうか。

(柴原志摩市副市長)

さきほど事務局の説明の中で、菓子博については伊勢、鳥羽、志摩で進めていると聞きましたが、私どもは趣旨には賛同いたしますが、今回は撤退したいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(中村度会町長)

志摩市さんとは逆になりますが、水面下では平成29年の全国菓子大博覧会の情報は聞いております。各市町それぞれ温度差があると思ひますが、度会町としては少しでも仲間に入れていただきたいと思ひます。内容としては、お茶の伝統がありますが、お茶が低迷してありますので、お茶のお菓子を開発して全国展開してあります。また、ブルーベリーをささやかながら作ってありまして、自分のところの町だけでは限度を感じている状況を迎えてありますので、全国菓子大博覧会で、伊勢市、津の業者さんに使っていただくことも交渉してあります。ばらばらの地域のブルーベリーというより、ぜひとも県内産のブルーベリーとしてまとまって売り出せればと思ひます。イベントとして参加させていただいて、一步一步、起爆剤にしたいと思ひますので、どんな形になるかは担当課レベルで議論することになりますが、参加させていただきたいと思ひます。

(会長)

ありがとうございます。市、町、県でどういったことができるのか、度会町さんのお茶については和菓子に必要不可欠な存在でありますので、様々な取組をしていければと思ひます。各市町の商売されているお菓子屋さんで組合に入っている業者さんとも、今後協力が進めばと思ひます。

(辻村玉城町長)

志摩市さんの考えはございますが、伊勢、鳥羽だけではなくて、定住自立圏の圏域として、私どもも、伝統のお菓子がありますので、この機会に活性化できる、そんなつながりが生まれていくことを期待して、仲間に入れていただければありがたいと思います。

(木田鳥羽市長)

菓子博については、志摩市の副市長さんから撤退という話もありましたが、負担金や職員を出してほしい、ということが言われており、それに応じるのが参加で、応じなければ撤退ということなのか、そのあたりがちょっと分かりません。我々は主催者に協力をしていくという立場で、参加とか撤退という話になるのか、ちょっと疑問があります。

お金や人を出すということにかかわらず、菓子博に協力できるものはしていく、という形でやっていくのでいいのではないかと思います。ちょっとよく分からないので、お分かりであれば説明していただけないかと思います。

(会長)

主催者ではありませんので、推測の域内での話になりますが、来年に向けて準備委員会が設立されて、市、県、近隣の市町でどういった参加のあり方を求めていくのかについて協議されていくのではないかと思います。

さきほど、志摩市さんから撤退という話がありましたが、菓子工業組合さんからの依頼について撤退するのか、定住自立圏の取組として撤退するのか、その点についてご見解を賜ればと思います。

(柴原志摩市副市長)

菓子工業組合から何度か話を聞かせていただいております。その中で、私ども、人もお金も非常に厳しい状況ですので、その部分について協力は不可能です。

定住自立圏の趣旨には賛同しますが、菓子組合さんから提案していただいている部分については、協力できないということです。

(会長)

それは志摩市さんの考え方として、県菓子工業組合と志摩市さんの関係の中でご説明いただければよいと思います。

定住自立圏の取組について、何かお考えがあればお聞かせいただければと思います。

(中村度会町長)

今の鳥羽市長さん、志摩市副市長さんのお話はもともとであると思いますが、やはりイベントには人、金、物が要るものであると思います。そのあたりの詳しい事情は私た

ちには分かりませんが、資料の提供を早めにいただければと思います。

(会長)

その点については、早めの情報共有をできるよう先方さんにお話させていただきたい
と思います。

他にございませんでしょうか。

<なし>

それでは、【議案第1号】定住自立圏の形成に関する協定書における取組内容の追加
はさきほどの説明のとおりとすることで、ご異議ございませんでしょうか。

<異議なしの声>

ありがとうございます。それでは、【議案第1号】は、可決とさせていただきます。

それでは、次の議事に移らせていただきます。

(2) 伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの取組の現状 について、事務局からご説明
いたします。

(事務局)

それでは、(2) 伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの取組の現状 についてご説明させ
ていただきます。

資料2-1 伊勢志摩定住自立圏 経過及び予定 をご覧ください。

上段の網掛けの部分は、中心市宣言以降の、昨年度の協議会及びビジョン懇談会の開
催状況でございます。

中段の網掛けをしていない部分は、今年度の取組状況でございまして、4月に共生ビ
ジョンにかかるパブリックコメントを実施いたしました。寄せられた意見を踏まえ、共
生ビジョン案を作成しまして、5月15日、今年度第1回目のビジョン懇談会を経て、6
月16日に共生ビジョンを策定いたしました。12月2日には今年度第2回目のビジョン
懇談会を開催し、ビジョンの取組状況をご報告した後に、圏域の現状と課題について懇
談を行いました。そして本日の推進協議会、という流れでございます。

また、下段の網掛けの部分は、今後の予定でございます。本日の会議後、関係市町の
議会に変更協定に係る議案を提案し、議決を経た後、年度内に変更協定の締結を行う予
定でございます。その後、4月にはこうした協定の変更を踏まえて、5月にはビジョン

の変更を行ってまいりたいと考えております。以降については本年度に準じて進めてまいりたいと考えております。

資料 2-2 各部会での検討事項 でございます。医療・福祉部会では、ビジョン懇談会で提案のあった、ファミリーサポートセンター事業のしくみのほか、医療の適正受診にかかる啓発、介護従事者の雇用環境の整備について、教育部会では、図書への借入や生涯学習講座の受講について、産業・観光部会では、地産地消、地域産物の情報発信、獣害対策について、公共交通・基盤整備部会では、コミュニティバス等の公共交通機関の利便性の向上について、総務・企画部会では、公共施設の相互利用、圏域のイベント等の情報発信の手法について、検討を行っているところでございます。

以上、雑駁ではございますが、ご説明とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

(会長)

ただ今、伊勢志摩定住自立圏の経過及び予定、また各部会での検討事項について説明がありました。この点についてご意見、ご質問がございましたら、お願ひしたいと思います。

(中村度会町長)

地域の人材育成について、教育制度のあり方が変わる中で、情操教育や学力向上などいろいろな課題を抱える中で、小中学校はそれぞれの自治体のカラーを出してやれば良いと思いますが、教育の中立性を守りながらも、地域の人材を育成する視点を部会の中に入れていけないかと思ひます。度会町と南伊勢町の問題ということだけではなく、圏域で現状ある学校が無くなっていく可能性がありますので、もし皆さんがよろしければ、地域の人材育成を考えていくことをどこかの部会でできればと思ひますが、皆さんの意見はいかがでしょうか。

(会長)

人材育成のイメージについては、高校、大学ということなのか、もっと広いものなのか、どうでしょうか。

(中村度会町長)

小中学校はそれぞれの地域の色を出してやれば良いと思ひますが、高校の場合は、これまで伊勢市を中心にやってきて、今後すぐに周辺にある高校を無くすのではなくて、地域を越えて人材を受け入れて育成していくことが必要だと思ひます。広域の伊勢志摩地域で若者がこの地域に残って、地域に貢献してもらえるよう、県教委と協力しながら、普通科高校に限らない形で、魅力ある学校づくりをやっているかと思ひます。

教育は中立性を守ることが大事ですので、あまり踏み込まないことも必要ですが、地域で人材育成をやっていくということを、定住自立圏のどこかの部会で議論してもらえたらと思います。

(会長)

高校教育を中心とした人材育成について、そのあり方や情報共有について取組の項目として入れていこうという提案がございました。事務方で現状認識、将来の方向性などについて議論の項目に入れさせていただこうと考えますが、皆さんいかがでしょうか。

(中村度会町長)

教育部会があるということですので、その中に今の内容を入れていただければと思います。

(会長)

よろしいでしょうか。

<なし>

度会町長さんからの、高校教育の提案を検討事項に含めていくことについて、異議なし、ということでしたので、そのように進めさせていただきたいと思います。

次に、(3)伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン懇談会における主な意見等 について、事務局からご説明いたします。

(事務局)

資料3-1 伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン懇談会 委員名簿 がございます。中心市の伊勢市から10名、連携市町からお一人ずつ、計17名の構成となっております。それぞれ区分、団体名、委員の各所属における役職、氏名を掲載しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

資料3-2 伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン懇談会における主な意見等 をご覧ください。昨年度のビジョン懇談会でいただいた主なご意見でございます。項目が多くございますので、内容の詳細は割愛させていただきましたが、それぞれについて、圏域の取組の現状と中心市の考え方をとりまとめいたしまして、去る12月2日に開催されました今年度第2回目のビジョン懇談会でお示しをし、その場でもご意見をいただいたところでございます。例えば一例を申し上げますと、「6次産業化に向けて、市町職員の能力向上」、「地元人材の育成に関すること」については、今年度皇学館大学が文部科学省の採択を受けた「地(知)の拠点整備事業」にて「伊勢志摩定住自立圏共生学」という教

育プログラムを設けておられますが、皇学館大学との連携を図りながら取り組んでいるという説明をいたしましたところ、それとは別に商工会議所、農協等と共に取り組んでいていただきたいという委員からの強い要望もございました。

他にもいろいろございますが、主な一例だけを申し上げます。雑駁ではございますが、以上でご説明を終わらせていただきます。

(会長)

ただ今の説明に関しまして、ご意見、ご質問等ございましたら、お願いしたいと思います。

よろしいでしょうか。

<なし>

次に、(4)伊勢志摩定住自立圏についての情報交換及び提案 でございます。首長同士の情報交換の場ということで、さきほど度会町長さんからお話があったように、こういった取組を試みてはどうかというように、ご自由にお話をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

(会長)

木田市長さんから、いきますか。

(木田鳥羽市長)

定住自立圏構想ができて、それに参加することによって、中心市と連携市町に対して国から予算が入ることですが、現在、国からの予算はどのようになってきているのか、知りたいと思います。

(会長)

事務局からお答えできますか。

(事務局)

国から何度か提示をいただいております、上限の目安が中心市で8,500万円、連携市町で1,500万円ということで、当初に示されていた額よりも増えているような状況です。各市町の財政担当でその算定を行っていただいております、特別地方交付税を受けていただくという流れになっております。

(会長)

時期的には、今年度からということですか。

(事務局)

今年度からということで、現在、財政課でその数字を置く作業をしているところです。

(会長)

志摩市副市長さん、いかがでしょうか。

(柴原志摩市副市長)

それは交付金、あるいは補助金ですか。

(事務局)

特別地方交付税という形です。中心市で、当初は 4,000 万円と聞いていましたが、直近では 8,500 万円と聞いています。

(会長)

辻村町長さん、いかがでしょうか。

(辻村玉城町長)

良い形で中心市の取組を進めていただいていることに感謝を申し上げます。これをずっとこれからもやっていくことが大事であると思っていて、広域で一緒に、これから伊勢志摩を中心にしてこの地域を盛り上げていこうという機運が高まってきたということで、なかなか一朝一夕には物事は進みませんが、これからもよろしく願いできればと思います。

(会長)

中村町長さん、いかがでしょうか。

(中村度会町長)

我々としては、いつもの日々の努力を皆さんと一緒にしながら、あまり肩に力を入れずに、やっていきたいと思えます。国の制度として非常に良い制度であると思えますので、伊勢市さんを中心に、産業や観光の分野を中心にとというのは基本的には一致した理解であると思えますが、可能な範囲で事業を一步一步進めていきたいと考えています。

それから圏域の将来像について、将来この地域が連携とか広域ということを超えて、伊勢市さんを中心の一つの地域に馴染んで融合していく、発展していくような起爆剤に

なれば、費用対効果が見えない面で大きいのではないかと思います。そういう方向に持っていく努力を皆さんと一緒に5年、その範囲内で頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。

(会長)

中井町長さん、いかがでしょうか。

(中井明和町長)

ネットワークをもう少し強めていけないかというふうに思います。例えば、私どもは観光の振興で入っています。結びつきやネットワークについては、観光交通の看板の受け皿ということで明和町や玉城町が入っているのかなと思います。また、私どもで一番悩んでおりますのは土産物が無いということで、地域の生産者で何か新しいものを生み出していくというネットワークづくりは、明和町単独ではなかなか出来ませんので、この広域で、共同で何か生み出していく取組も必要かなと思いますので、もう一歩進んで、ネットワークの強化をもう少し具体化していくことをぜひお願いしたいと思います。

(会長)

御糸米も日本酒もひじきも美味しいですし、キャンプ場もたくさんあろうかと思いますので、いろんな良いところを共有して新しいものが生まれればと思います。

(小山南伊勢町長)

ビジョン懇談会ですごく良い項目を上げていただいて、良い話し合いがなされていると思います。項目の全部は無理としても、どれか一つでも、伊勢市の職員と連携市町の職員で協力して実際に動かすことが大事です。議論はできても、物事が動かないと地域の活力が生まれません。市民、町民の協力も最終的には大事になってきますが、まずは職員同士の協力体制を作って、菓子博が一つの例になると思いますが、できそうなことから実際に動かしてみることが大切であると思いますので、よろしくご検討いただきたいです。

(会長)

職員のご協力は谷口大紀町長さんも最初の頃に言っていただいていたことで、皆様方にご協力いただきたいことでもあります。事務方の職員の交流や連携と共に、ビジョン懇談会の委員さんと我々で、年に一回ほど意見交換させていただければと思っておりますので、そのときはよろしくお願いします。

大紀町副町長さん、いかがでしょうか。

(服部大紀副町長)

町長も「まちづくりはひとづくり」と言っておりますが、地域づくりも人づくりであると思います。度会町長さんが言われたように、人材育成も伊勢市を中心として進めていくことは良いことであると思います。大紀町としても協力いたしますので、どんどん進めていってほしいと思います。大紀町は行政や教育は南勢志摩、伊勢志摩の地域に入りますが、交通や医療は松阪管内に入りますので、圏域同士の情報交換についても、検討をよろしく願いできればと思います。

(会長)

皆様から様々なご意見をいただきました。

野村局長さん、思われたことがあればご意見いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(野村南勢志摩地域活性化局長)

伊勢志摩定住自立圏が立ち上がって、南勢志摩地域でこのような場があるということが素晴らしいことであると思いますし、伊勢志摩、南勢志摩は従来からまとまった広域性がありますので、しくみづくりを普段から作っていくことについて、南勢志摩地域活性化局、総合庁舎全体として、8つの市町の地域の方々に最大限努力させていただきたいと思っております。

(会長)

ありがとうございます。

岡村所長さん、いかがでしょうか。

(岡村松阪地域防災総合事務所長)

松阪地域の定住自立圏もしばらく止まっておりましたが、動き出そうということで話が進んでおりますので、今日の話をご参考にさせていただきます。また、さきほど大紀町さんからもお話がありましたが、定住自立圏の間での情報交換も大事であると思っておりますので、県も広域的な役割を果たしながら一緒に努力させていただければと思っております。

(会長)

それでは大西課長さん、最後になりますがよろしくお願いいたします。

(大西地域支援課長)

国で地方創生という話が上がっており、どんどん地方にも話が来ると思います。25年くらい前、私も南勢志摩県民局で地方振興を担当させていただいて、当時から南勢志摩の地域はポテンシャルがあって、つながり、絆が強かったという実感があります。今回こういう形で定住自立圏推進協議会をやるのは貴重な機会であると思いますので、今後も引き続き進めていただければと思います。

また、小山町長さんがおっしゃっていただいたように、何かを始めるとき、皆で一緒になって考えることが大事であると思います。県の南部地域活性化局で基金を作りまして、一つの市町だけではなく他の市町とつながって地域づくりをしていただくしくみも作らせていただいておりますので、皆さんでいろんな可能性を検討していただきたいと思います。財源的なものや人材的なのはむずかしい点もありますが、県としても皆様にしっかり寄り添って検討していきたいと思いますので、これからもよろしくお願いたします。

(会長)

ありがとうございました。

皆様から様々な意見を賜りました。いただいた意見をできる限り反映して進めていきたいと思っておりますので、皆様方のご協力もよろしくお願い申し上げます。

最後に、その他 ということで事務局から何か説明はありますでしょうか。

(事務局)

今後の推進スケジュールについてご説明申し上げます。

議事の(1)でもご説明させていただきましたが、来年度から新たな事業を行うにあたっては、その事業が伊勢市と各市町で締結している定住自立圏形成協定の内容に該当しない場合、協定内容を変更する必要があります。「イベントの誘致及び開催」については、現在の協定の内容に該当するものがございませんので、これを定住自立圏の新たな取組として行う市町を1月中旬までに定め、具体的な協定変更の手続きに入りたいと考えております。関係市町で協定変更の内容を調整のうえ、案を作成し、関係市町の議会で提案し、議決を経た後、首長様の署名付きで協定を結び直す、というところまでを今年度末までに行う、という流れを想定させていただいております。その後、協定の変更を受けて、来年度の早い時期に共生ビジョンを変更し、事業を進めていく、というように考えております。

最後になりますが、本日の協議会の結果につきましては、後日、伊勢市のホームページに掲載させていただきたいと考えておりますので、その点もよろしくお願い申し上げます。

ます。

(会長)

ご質問はありますでしょうか。

鳥羽市長さん、どうぞ。

(木田鳥羽市長)

全国菓子大博覧会と一緒にやっていく場合、定住自立圏の中で具体的にどういうことをするのか、教えてもらえますか。

(事務局)

全国菓子大博覧会については、具体的には人とお金を出して、組織を作ってそこで推進していくことになるかと伺っております。「イベントの誘致及び開催」という大きな項目としては、他にも様々な関わり方がございまして、閣僚会合、伊勢志摩国立公園 70 周年の事業、国体など関連してくるイベントがあれば、その都度、共生ビジョンの実施スケジュールの欄にそれぞれ小さい項目を追加していくというイメージになります。協定を締結して、予算を計上して共生ビジョンに額を記入することで、定住自立圏構想の中で取り組む事業として、上限の範囲内で、特別地方交付税措置の対象になるということです。

(会長)

他にはよろしいでしょうか。

<なし>

本日の協議会の結果については、事務局が作成のうえ、私が確認をいたします。

それでは、これもちまして、本日の会議を閉会させていただきます。

本日は、本当にありがとうございました。良いお年をお迎えください。